

されている。このように外挿法を使用するのは好ましいことではなく、歴史記録や統計資料が豊富な所では外挿法を用いるべきではない。

ゲールスコフの図は当然さらに修正され震度分布をもっと精密なものにせねばならぬ。それは図上の震度の強い区域が広大に過ぎると、その区内で一律に同じ耐震措置をとることになり不経済だからである。補充や修正をするためにはもっと豊富な地震地質構造の資料を用いねばならぬ、ソ連の地震学者はこの方面に努力しており将来地震活動区域分割の仕事はもっと向上しかつ地震予報の問題でも一歩前進するであろう。

我々が地震活動区域図を作るのは過去の地震を調べることが趣旨ではなく、各地区で今後若干年の間にどの位の強さの地震が起る可能性があるか、また起きればその影響面積はどれ位かを予測するためであるから、我々は単純な統計資料だけに頼ることはできない、一地震区内に多くの震原があることもあり得るから、過去の資料にないような震度の地震が発生する可能性もある。1933年に四川省の岷江上流に震度 10 ~ 11 の地震が発生したが、過去にはそのような記録がなかったという例もある。我々がある地区の地震状況を正確に認識しようと思えば、必ずレーニンの述べた如く「関係あるすべてのものと連系して全方面から研究把握」せねばならない。

地震は主として地質構造上の原因により発生し、特に造山運動の過程中でもっとも地震がおき易い。我国の地

震は吉林省琿春附近の如き極めて少数の例外を除けば、一般に地殻上層に発現し、震原は深くなく、ごく浅いものもある。岩石は弾性を有し、地殻内部のエネルギーが弾性の極限をこえれば突然に裂けて地震となる、よって地震区域はしばしば地面の地割れと一致し、震原はその下方にある。従って我々が総合判断を下す時にはいつも小地震が発生している地区では大量のエネルギーを蓄える条件はないから大地震はまず起きないし、反対にかなり長い間地震の起きていない地震区では多量のエネルギーが蓄えられてきて大地震となる可能性があることに注意せねばならない。地震地質構造の資料が重要なことは以上によっても明かであろう。この方面の資料が豊富になればなる程、我々の帰納がたやすくなり、結論もますます正確になり、でき上る地震図もいよいよ実用に適するものとなる。

このような標準的地震図こそ、我々の目的であり、我々は一方歴史の中から合理的で信用できる資料を整理して過去を解明し、他方現有の地質調査資料を利用して科学的に分析推論し、地震活動区域図の第一版を作製して、建設部門の参考に供さねばならない。しかし元来我国の地震研究はごくすくなく、基礎も甚だ薄弱なので、でき上る図も充分なものではあるまい。しかし我々は更に地震地原構造の資料を累積し、且つ大規模に地表よりの観察や機器による地下構造の探測を進めて、できるだけ速かに上述の目標に到達しなければならない。

日本気象学会 1954 年年会第 3 日

22 日の特別講演は大気乱流の研究 小倉義光; 数値予報について 岸保勘三郎; 気象とレーダー 今井一郎;

シンポジウムは 2 つにわかれ季節予報シンポジウム: 座長 高橋浩一郎; 話題提供 福田喜代志; 小河原正己; 小倉義光. Cloud physics シンポジウム: 座長 伊東疆自; 話題提供 大浦浩文; 熊井 基; 黒岩大助; 大谷清次; 孫野長治であり終って講堂で懇親会が開かれ盛況のうち総会、年会の全日程を終った。

日本気象学会役員選挙

気象学会の理事、監事の選挙結果は去る 5 月 24 日に開票され新役員が次のように決った。(数字は票数)

東京在勤理事: 当選 高橋浩一郎 446; 畠山久尙 444; 伊東疆自 427; 正野重方 417; 有住直介 397; 沢田龍吉 396; 久米庸孝 337; 神山恵三 328; 和達清夫 300; 岸保勘三郎 240; 次点 松本誠一 222; 以下肥沼寛一 217; 大田正次 203; 川畑幸夫 185; 斎藤鎌一 135; 北岡龍海 113; 福井英一郎 106 以下略
地方理事: (北部) 当選 柴田淑次 28; (東北) 当選 山本義一 25; 次点 間野浩 24; (東部) 当選 吉武素二 206; 次点 小平吉男 51; (中部) 当選 滑川忠夫 110; 次点 西本清吉 8; (西部) 当選 倉石六郎 6.
監事: 当選 櫻庭信一 292; 堀内剛二 270; 次点 北川信一郎 244; 以上

なお東京在勤理事会は 5 月 29 日開催され(和達, 正野, 高橋理事欠) 畠山理事議長のもとに理事長互選の方

法, 庶務, 会計, 編集等の事務分担について話し合った。一応分担の確認されたものは次のとおりである。

気象集誌編集 岸保理事; 予報研究ノート編集 窪田, 松本; 物理気象研究ノート編集 神山理事; 天気編集 伊東理事; 定かん関係 有住理事; 会合関係 沢田理事; 維持会員関係 久米理事; 学会賞牌関係 神山理事。庶務は高橋理事に依頼し、会計は事務内容分量等を検討の上決めることになった。

また今秋建築学会、航空学会、農業気象学会、海洋学会、土木学会等と連合で風を中心としたシンポジウムを開くに件ついて話が喜び喜んで参加を決定した。

編集後記 "天気" の創刊号についていろいろ批評のことばをいただいています。内容が堅すぎる、もっとくだいてわかりよく書け、測候所の現業員が親しみをもって手にとれるものにせよ、異常気象現象の解説がほしい。地方で研究されたものをのせよ等等です。どんな批評も貴重な意見として編集に反映させるようにつとめるつもりでいます。どうか批評と同時に投稿で責極的な支援を願います。2号も地方からの原稿が少く残念です。うずもれている玉稿のないように、"天気" をもっと地方色濃くしてください。地震活動の紹介と総会年会記事および写真について御意見をよせてください。(6-10 伊東)